

デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.10-11 地球儀と世界地図の違い

2. 目標 (1) 地球儀とさまざまな図法の世界地図を比較し、地球儀と地図の違いを理解できる。

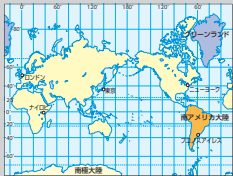
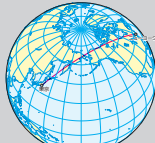
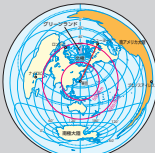
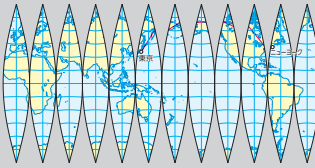
(2) 球体は平面の地図に正しく表せないことに気づき、地球儀と世界地図の長所と短所を考察できる。

3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	- 地球儀と世界地図の違いを方位や面積、距離などに着目して理解している。 - 中心からの距離と方位が正しい地図の特色を理解し、活用している。
思考・判断・表現	緯線と経線が直角に交わる地図は、緯度が高くなるほど、実際の面積より大きく表されている理由を考察している。

4. 指導過程

※ iPad では i 地球儀をご使用いただけません。

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. i 地球儀を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. さまざまな種類の地図がある理由を予想し、学習課題への見通しを持つ。	 i 地球儀※ 地球儀と地図の違いについて考えてみよう。  p.11 5  p.10 1 (上)  p.11 7  p.11 8 なぜ、さまざまな種類の地図があるのだろうか。	○ i 地球儀を活用し、大陸や海洋、国の位置と広がりなど、気付いたことを自由に発表させながら、本時への導入を図る。 ○ i 地球儀を使用できない場合は、グループごとに地球儀を準備する。 ○ さまざまな種類の地図がある理由を予想させる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：地球儀と世界地図の長所と短所は、それぞれどのような点だろうか。		
展開	3. 地球儀と地図では、方位、距離、面積などが異なって見えることを理解する。 (1) 2点間の経路	 p.11 5  p.10 1 (右) 「緯線と経線が直角に交わる地図」に東京とニューヨークの最短経路を赤色で記入してみよう。	○ i 地球儀と「緯線と経線が直角に交わる地図」、「地球儀を平面にした地図」を活用し、東京～ニューヨークの地球儀上での直線と地図上での軌跡との違いについて考えさせる。 ◆ 「緯線と経線が直角に交わる地図」は、任意の2点間の方位と距離が正しく表されていないことに気付かせる。

展開	(2) 八方位 (3) 面積 4. 「中心からの距離と方位が正しい地図」の活用について理解する。 (1) 中心からの距離と方位が正しい地図 (2) 目的に適した地図	p.10 2 ①～④にあてはまる方位を記入しよう。 p.11 5 p.11 6 二つの地図を見て、グリーンランドの大きさについて気付いたことを挙げてみよう。 p.11 8 東京から見て、ニューヨークはどの方位にあるだろうか。 この地図のよさと不便な点を説明しよう。	○ 学習プリントを活用し、八方位を確認させる。 ◆ 「緯線と経線が直角に交わる地図」では、高緯度ほど面積が広く表されることに気付かせ、その理由を考えさせる。 ○ 「中心からの距離と方位が正しい地図」を活用し、距離や方位の見方を理解させる。 ◆ 中心からの距離が遠くなるほど、大陸の形がゆがんでいることに気付かせる。 ○ 東京から見たニューヨークの方位と、東京とロンドン、東京とナイロビの距離を測らせる。 ○ 「中心からの距離と方位が正しい地図」を活用し、西へ向かって地球を一周したときに通過する大陸を確認させる。 ◆ 球体を平面の地図に正しく表すことができないことに気付かせ、目的に適した地図を使用する必要があることを理解させる。
整理	5. 本時のまとめをする。 6. 学習課題への振り返りの活動を行う。	地球儀と世界地図の長所と短所を表にまとめ、説明しよう。 「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。	◆ 地球儀と世界地図の長所と短所について、距離や面積、形、方位に着目して説明できたかを確認する。 ○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。
章の振り返り	7. 「章の問い」への振り返り活動を行う。	世界にはどのような国があり、その位置を表すには、どのような方法があるだろうか。 この章で学んだことから、次の章の学習に生かせることを考えてみよう。	○ 「章の振り返り」へ記入させ、次章の学習へつながりを持たせる。